

パパさまの来日祝ふ年賀かな

大阪大司教・枢機卿 前田万葉

主のご降誕と
新年のお慶びを
申し上げます。

王であるキリストの主日（11月24日）に、教皇フランシスコが、「すべてのいのちを守るため」というテーマで来日されました。キリストの王国では、まさに「すべてのいのちが守られる」のです。教皇来日に込められた摂理的なメッセージを感じます。それは、この日本で、そしてこの日本から全世界に、「パパさま」といのちを守るや待降節」を始めるようにとの使命を感じました。

典礼的にも次の日曜日（12月1日）は、待降節第一主日でした。「すべてのいのちが守られる」日のために準備し、その到来を待ち望む生き方を始めましょうとのメッセージだったので、クリスマスは、「パパさまの来日祭やクリスマス」になりますように。つまり、パパさまの「お父さん」的思いやりが、「神が共にいてくださる（インマヌエル）」という喜びに満ち溢れますようにと感じました。

パパさまの来日祭や
去年今年

教皇来日前準備、来日中
と、教会側はもちろんですが、政府や地元行政側、特

に警察関係などさまざまな分野でお世話をいただいたことに心から感謝したいと思います。

来日にあたっての大きな目的は、まず長崎、広島での「核兵器廃絶・世界平和アピール」であり、もう一つは日本の殉教・潜伏キリシタン関連からの「宣教・信仰刷新」の呼びかけであったと思います。そして、この二つに関連して、「すべてのいのちを守るため」に、被災者、障がい者・病人、若者、お年寄りなどへの慰めと希望をもたらすための寄り添いでもありました。

まさに、「インマヌエル」（神が共にいてくださる）というクリスマスそのものの「あかし」であつたように思います。天の父は、「すべてのいのちを守るため」に御独り子の誕生を準備し、御独り子キリストも、そのために人間として生まれて来られました。わたしたちも同じように「すべてのいのちを守るため」に待降節を過ごしました。パパさまの来日を準備しながら待ち続けたように、パパさまの

心と行いを見習いながら「インマヌエル実現」（クリスマス）をふさわしく迎えたことでしょう。

パパさまと
インマヌエルの
年賀かな

パパさまの来日の祝い・喜びは、新しい年に、「すべてのいのちが守られる」時代の幕開けとなりますようにという「世界平和祈願日」の年賀につながりました。パパさまは、「核兵器



返つてみるものが大切です。……私たちの後に生まれる人たちにどのような世界を残したいのですか」と呼びかけました。若者にも、「自分の中にこもらずに、ほかの人、特に、最も困窮している人のもとへ出向くことです。家族のため、友人のために時間を取ってください。でもそれだけではなく、神のために時間を取り、神に見つめてもらいなさい。神はきっと、あなたを平和で満たしてくださ

新年早々の教区宣教司牧評議会では、再宣教150年記念誌を基に、過去を振り返りましょう。また150周年の1年間と10月の宣教特別月間の現状を把握し、教皇様の宣教特別月間や来日のテーマに照らし合わせて、これからの宣教を再出発させましょう。

パパさまは、平和アピールのほかに、「日本の殉教者、また、数知れない試練の中で死に至るまで信仰をあかしした福者・高山右近のことを思い出します。迫害の中で信仰を守ろうとするこの献身のおかげで、小さなキリスト教共同体は成長し、堅固になり、豊かな実りを生み出しました。……あなたがたの共同体のDNAには、このあかしが刻まれています。それはあらゆる絶望に対する特効薬で、目を上げて歩むべき道を示してくれそうです。皆さんは、迫害の中で主のみ名を呼び続け、主がいかに自分たちを導かれたかを見つめてきた、生きている教会です」と、信仰と宣教の刷新を呼びかけてくれました。

後の言葉は、「大阪教区には神学生が何人いますか？」でした。非常に意味のあるパパさまのこの言葉に感謝し、この言葉を情熱に変え、その情熱を未来への希望につなげて、これからの大阪教区宣教再出発の原動力にいたしましょう。

パパさまと再出発や
新年会

廃絶への皆さんの預言的ともいえる呼びかけに、私も同調を表明したく思います」とおっしゃいました。また、自然災害や原子力発電所の事故について、「このようにときには、立ち止まり、じっくり考え、振り